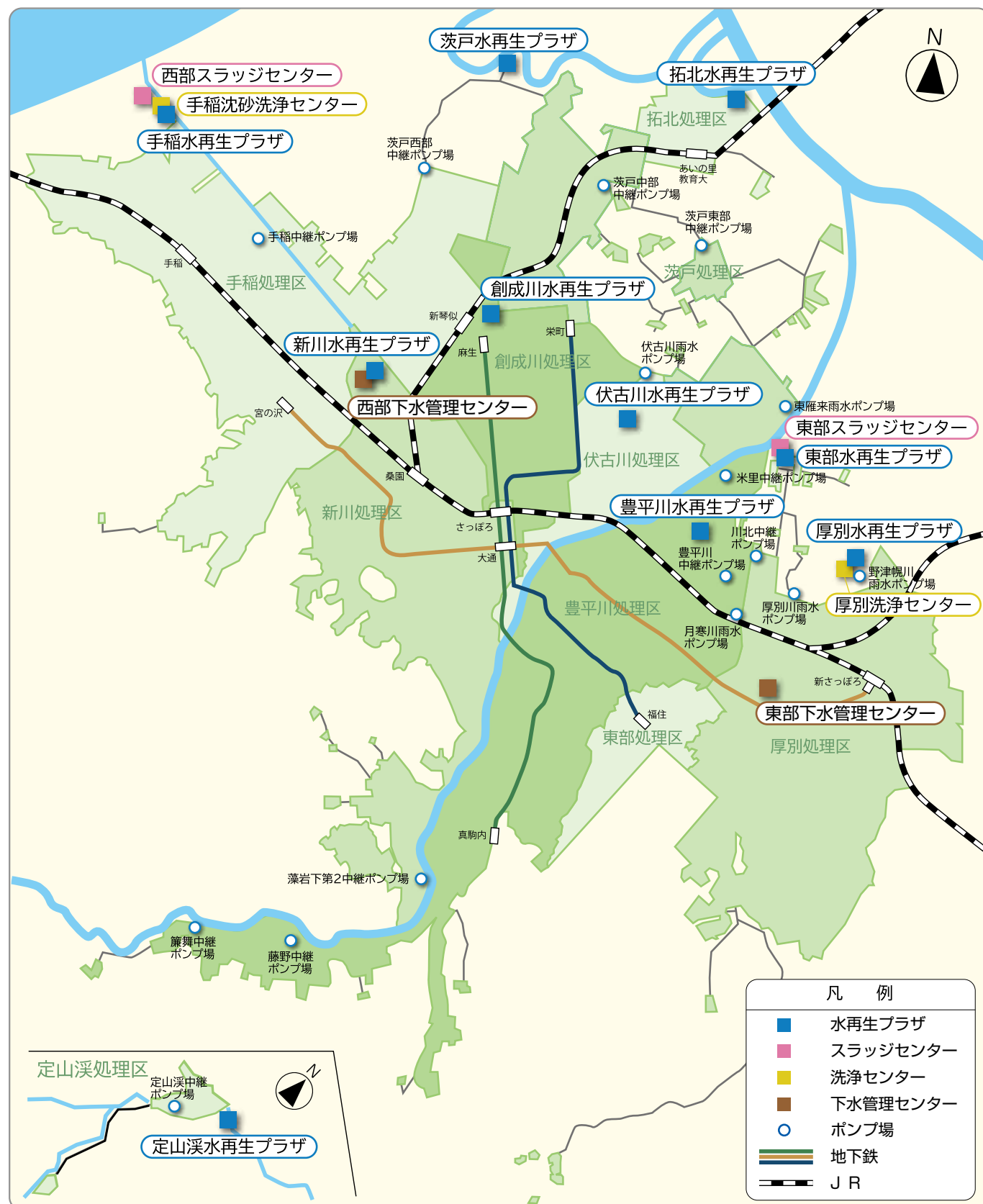


下水道の整備状況

札幌市には、令和6年度末現在で、総延長約8,300kmの管路と10か所の水再生プラザ、16か所のポンプ場があります。さらに、水再生プラザから発生する下水汚泥を処理する2か所のスラッジセンターがあります。また、水再生プラザやポンプ場、管路施設などから発生する土砂やごみを洗浄する2か所の洗浄センターを整備しています。その他にも下水道管やマンホールなどを維持管理するため、2つの下水管理センターを設けています。

(R7.3現在)



下水道のあゆみ

札幌市の下水道事業は大正15年（1926年）に浸水の防除を主な目的として整備を始め、戦後の急激な人口増加に伴い、昭和32年（1957年）から、公衆衛生の向上と公共用水域の水質保全を目的とした下水道整備に着手しました。

その後、昭和47年（1972年）の札幌冬季オリンピックの開催を契機に、1970年代から1980年代にかけて集中的に下水道の整備を進めた結果、下水道の普及が急速に進み、生活環境や河川水質が改善されました。

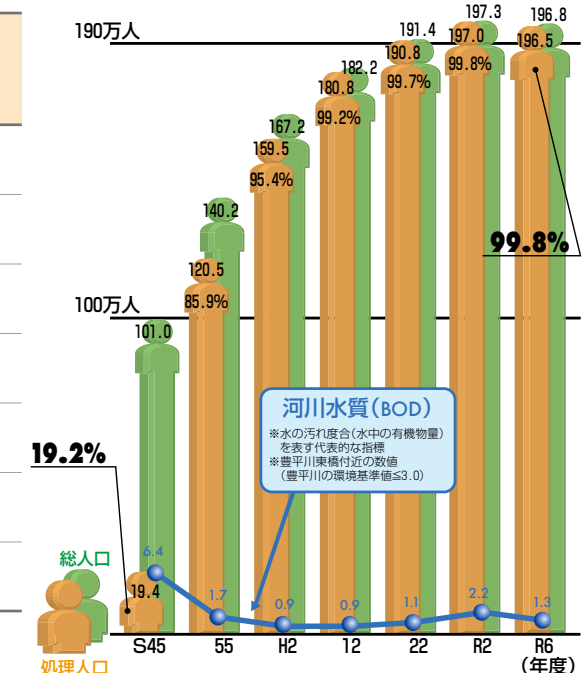
また、この間、汚濁が進行し一時は魚もすめない川となった豊平川に、昭和54年（1979年）には25年ぶりにサケが戻るなど、下水道の整備とともに河川水質の改善も着実に進みました。

さらに、処理の高度化（P26）や合流式下水道の改善（P26）などさらなる水質改善を行い、処理水を活用したせせらぎ回復や下水道資源の有効活用に努めてきました。

■下水道の整備状況

区分	管路延長 (km)	処理面積 (ha)	処理能力 (千 m^3 /日)
昭和45年(1970年)	910	1,771	115.4
55年(1980年)	4,170	14,638	729.0
平成 2年(1990年)	6,754	20,602	986.8
12年(2000年)	7,714	23,813	1,089.8
22年(2010年)	8,155	24,626	1,173.8
令和 2年(2020年)	8,300	24,790	1,173.8
令和 6年(2024年)	8,329	24,828	1,147.0

処理人口と河川水質（BOD）の推移（下水道処理人口）



昭和54年 豊平川にサケが遡上する。



枯渇した河川のせせらぎ回復(安春川)